

佳作

感動の力

青森県 松風塾高等学校三年 村上 慈代

感動とは、物事に深く感じて心を動かされることをいう。新しいものに触れたり、体験したりすることで、爽やかな、前向きな気持ちになれると思う。さらに私は、その気持ちを行動に移し、新たな自分を得ることで価値が格段に高まることを知った。感動を得ることは、何よりも幸せになれると思う。

私がこう思うようになったきっかけは、ある方の講演会である。感動が内発的に働くことによって永続的なやる気起きるのだとお話していた。また、自分が親切にされたのなら自分がまず相手に親切にしなければいけないとおっしゃっていた。私は、感動するとやる気が沸いてくることを体験したことがあったが、それが外発的に働く感動ではなく内発的に働く感動があるということにとても驚いた。内発的な感動により、永続的なやる気が続くのであれば、自分の夢ややりたいことに向かって全力で取り組める。このことに気づかされた私は、講演会のお話にとても感動した。

そして今の自分ができることは何だろうと考え、日常生活を見直してみた。まず手始めに取り組んだことは、挨拶の声を大きくしたり、返事をしっかりするように心がけた。またあるとき、寮の非常口を空いている時間に掃除したところ、

「きれいにしてくれてありがとう。」

と、皆にとても感謝された。その言葉を聞いて私も心が温かくなって、幸せな気持ちになった。このようなことを続けていくうちに、だんだん自分に自信が持てるようになり、明るくなって、毎日がとても楽しく感じられるようになったのである。あの時、感動を力に変えて決心することができて本当に良かったと思った。

このように、感動はそのパワーを行動に変えることで価値が格段に高まる。感動をエネルギーに変えることで、それが幸せにつながるのだ。

また、私はもう一つ感動した言葉がある。それは、「他人の喜びを自分の喜びにすること」である。自分が幸せになるには自分のために努力するだけでなく、相手のために尽くすことが大事なのである。誰かが喜んでいたら、自分も一緒に喜ぶ。もっと言うと、誰かを喜ばせることを自分の喜びにする。こうすることで、相手に尽くした恩が巡り巡って自分に返ってくるのである。今までずっと、自分が幸せになるには自分だけが努力すればいいと思っていたが、それだけではなく、相手を幸せに

することによって自分も幸せになれるという新たな発見をして、私はとても心を打たれた。私が誰かのために働くことは、そのことが既に自分のためになっていると思っただ。どうすれば他人から良い評価が得られるかではなく、どうすれば相手は喜んでくれるか、幸せになれるかを考えることが大切なのだ。これは社会に出ても同じである。

他人の評価を気にせず、誰かのために尽くせるような人になりたい。そして、講演会での感動をいつまでも持ち続けたいと思った。